校長室から（R元年度）

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No．72

令和２年２月２５日（火）発行

ある新聞記事より

毎日小学生新聞　２／２３

きょうの紙面

甘辛チキン　6面

こどもしんぶん　3面

サワラちゃんです

なるほドリの旅は道づれ　7面

アザラシに急接近

列車に乗ろうよ！　8面

ゆりかもめ

ウイルスとは？

新型コロナウイルスの感染者が日本国内でも増えています。みんなが心配しています。たしかに注意しなければいけませんが、まずはコロナウイルスがどんなものかを知っておきましょう。「敵」に勝つには、まず「敵」を知ることです。

細胞に入って増殖 抗生物質効かない

コロナウイルスって

テレビニュースでコロナウイルスの写真が出ますね。あれは電子顕微鏡でとらえた映像です。ウイルスはとても小さく、学校にあるような普通の顕微鏡では見ることができないのです。このため、「何か悪さをするものがいるらしいが、正体がわからない」という状態が、20世紀の初めまで続きました。

コロナウイルスは球体で突起がいくつもついている形から、「王冠」という意味のコロナという名前がつきました。

これまでのコロナウイルスは、風邪の原因になる、ごくありふれたウイルスでした。それが今回は変異つまり性質が変わってしまった結果、どのような治療をすればいいか専門家も戸惑っているのです。

生き物ではない

ウイルスとバイ菌（細菌）は混同されますが、違うものです。

細菌は、細胞膜に覆われ、自力で分裂して仲間を増やすことができます。抗生物質は、細菌の細胞膜を破壊するので、細菌に効果があります。

ところがウイルスには細胞がなく、自分で分裂することもありません。そこで、ウイルスを生き物（生物）とは考えていない専門家もたくさんいます。遺伝子がタンパク質でくるまれただけのものなのです。

え・藤井龍二

よくウイルスが「死んだ」とか「生きている」とかいう言い方をしますが、実際は「死んだ」というのは不活性化、「生きている」は活性化という表現をします。

ウイルスは単独では生きていることができません。おっと、思わず「生きている」と言ってしまいましたね。単独では間もなく不活性化してしまうもの。ウイルスは、別の生物に取り付き、細胞の中に入り込んで、細胞を支配します。その上で、細胞のエネルギーを勝手に使って自分のコピーを作らせます。大量のコピーを作らせるので、このときコピーミスが起きやすくなります。このコピーミスが「ウイルスの変異」と呼ばれます。そして新型ウイルスが生まれるのです。

ウイルスが増殖すると細胞は力尽きて死んでしまいます。今回の新型コロナウイルスは、肺の細胞に取り付いて細胞を次々に死滅させるため、炎症が起きて肺炎になるのです。

免疫で打ち勝とう

インフルエンザウイルスは、正体がよくわかっているので、予防のためのワクチンや治療のための抗ウイルス薬（タミフルやリレンザなど）が開発されていますが、今回の新型コロナウイルスは、まだそこまで対策ができていません。となると、大事なのは「免疫力」です。免疫力とは病気に打ち勝つ力のこと。ウイルスは熱に弱いので、人間の体はウイルスをやっつけるために38度以上の熱を出します。これが発熱です。発熱することでウイルスを不活性化しようとしているのです。

若い人は免疫力が強いので、感染しても重症化する人が少ないのですが、高齢者や持病のある人は重症化する危険があります。まずはウイルスのことを知って、「正しく恐れる」ことが必要です。

みんなの目・教えて！池上さん 305

◇池上彰さん［ジャーナリスト］　1950年長野県生まれ。NHKで報道記者やニュースキャスターを務めた。2005年からフリーのジャーナリストに。名城大学教授、東京工業大学特命教授。著書に「池上彰の親子で新聞を読む！」など多数。